

宇都宮市立瑞穂台小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「家で学校の授業の予習をしている」「家で学校の授業の復習をしている」などの質問項目に肯定的回答をした児童の割合は、いずれも県の平均を上回っており、学習に対する意欲が高いことが分かる。

●しかし「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか(学習じゅくや家庭教師もふくむ)」の質問項目に対して30分未満と回答した児童の割合は県の平均よりも多い。今後は、宿題の内容や量の工夫、及び自主学習の指導を充実させることにより、児童の家庭学習への取り組みを支援していきたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という質問項目に対する児童の肯定的回答は、いずれも県の平均を上回っており、児童が話し合い活動に積極的に取り組んでいる様子がうかがえる。

○「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間読書をしますか(教科書や参考書、まんがや雑誌は除く)」という質問項目に対して、30分以上読書をしていると回答した児童の割合は、県の平均よりも上回っている。児童が読書に親しむことができていることが分かる。

●「自分には、よいことがあると思う」「自分の行動や発言に自信をもっている」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」という質問項目に対する肯定的回答は、いずれも県の平均を若干下回っている。児童に対して肯定的な声かけを心がけたり、児童の頑張りがや活躍を見逃さずに褒めたりすることにより、児童の自己肯定感を高めていきたい。

宇都宮市立瑞穂台小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自ら問いを立て、学ぼうとする意識をもつことができる指導の工夫・改善	・単元を通して、学びが継続できるような展開を工夫する。 ・学習のねらいに迫るめあてを全体で共有して取り組ませたり、授業の学びを自分の言葉で振り返らせたりして、主体的に学習に取り組めるようにする。	「授業ではめあてが示されている」や「授業では振り返る活動を行っている」の質問に肯定的に回答した割合は、県平均を下回っており、教師と児童で意識のずれが見られた。
対話を通して課題を解決する活動の工夫	・自分の考えを文章にするなどして、考えをもって活動に取り組ませる。 ・各教科だけではなく学級活動などを通して、書く活動と話し合い活動を関連付け、相手や目的を意識させる。 ・課題解決するために見通しをもって話し合いができるよう、手順を示す。	「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問に肯定的に回答した割合は、県平均を5年生は上回っていたが、4年生は下回っていた。また、書くことに苦手意識がある児童の割合は、どちらの学年も高かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、自分の考えを書く設問の正答率が低く、苦手意識も高かった。また、話し合い活動に関する質問で、県平均を下回る項目が多かった。	・書く活動と話し合い活動を関連付けた指導の充実	書く活動では、必要な情報を整理し、友達との協力的な活動を取り入れながら自分の考えが伝わるよう書き方を指導する。また、学級活動では書く活動と話し合い活動を関連付け、相手意識や目的意識をもって取り組ませる。さらに、対話によって課題が解決していく喜びを実感させ、苦手意識を取り除いていきたい。